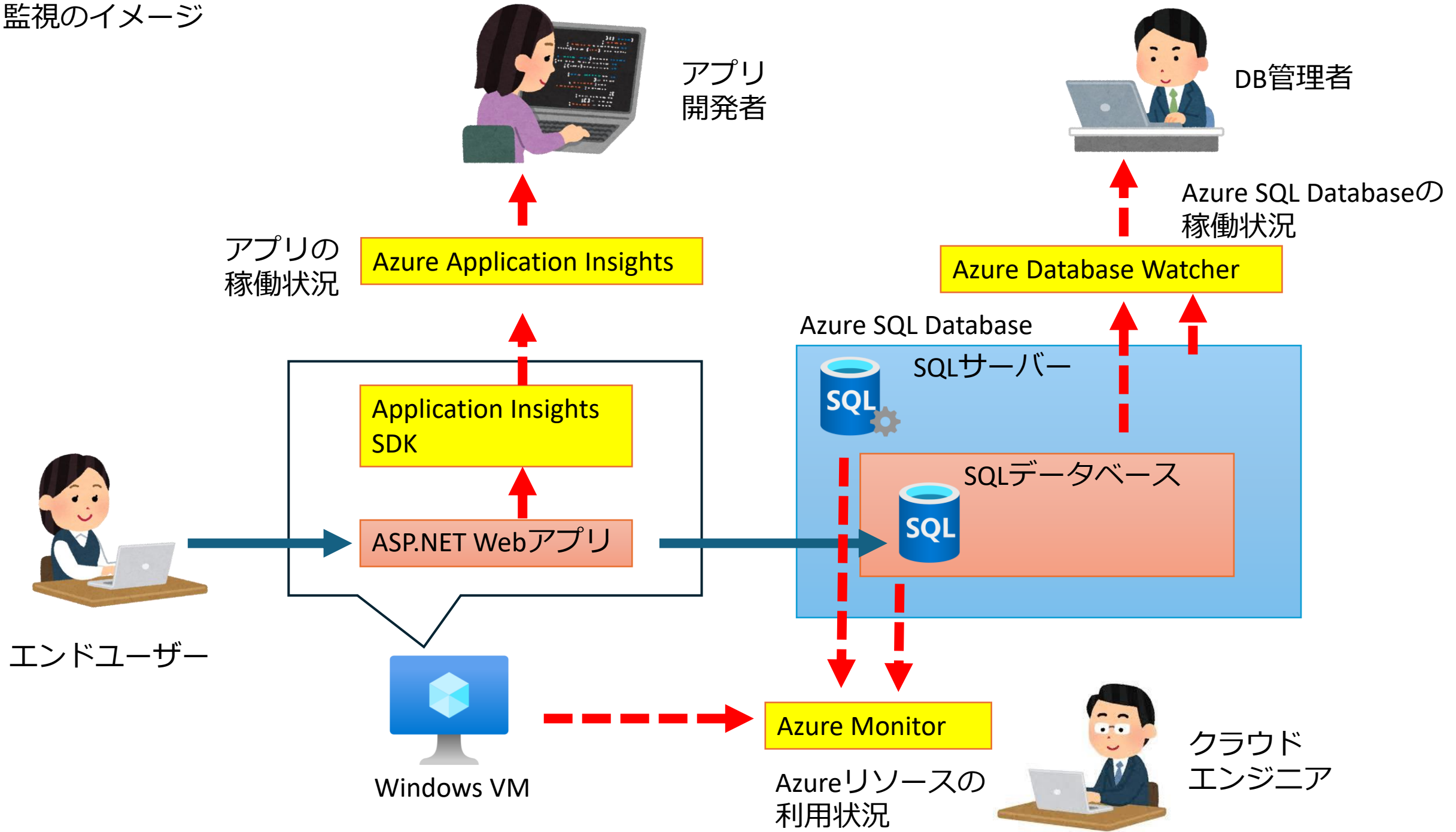


ご質問

- Azure Database Watcherとapplication insightの違いは何ですか？ SQLの場合は、application insightは利用できないのでしょうか？
- → **Azure Database Watcher**（2024/3～プレビュー）は、**Azure SQL Database / Azure SQL Database Managed Instance用の監視ツール**です。データベースの稼働状況の情報を集め、ダッシュボード画面で稼働状況を視覚化して確認できます。
- → **Azure Application Insights**（2016/11～一般提供開始）は、Azure Monitorの一部であり、Webアプリ、モバイルアプリ、デスクトップアプリといった**アプリの稼働状況の監視を行うツール**です。基本的にアプリにライブラリを組み込み（手動インストールメンテーション）、アプリの稼働データを収集してApplication Insightsに送信します。そしてApplication Insights側でそのデータを集計し、Azure portalの画面上でアプリの稼働状況を確認します。Application InsightsにはDBそのものの監視の機能はありませんが、アプリがDBに接続している場合、そのDB接続の利用状況（頻度・レイテンシ・エラーなど）の情報は取得できます。

■ 監視のイメージ



ご質問

- Azure Database Watcherは、Azure monitorを利用しないのでしょうか？
- → **一部で利用しています**。Azure Database Watcherの「ダッシュボード」（ヒートマップの表示など）では、Azure Monitorの機能の一部である「Azure Workbooks」を使用しています。ただし、Azure Database Watcherは、Azure SQL Database / Azure SQL Database Managed Instanceから集めた監視データを、Azure Monitorではなく、Azure Data Explorer（ビッグデータ分析プラットフォーム）に格納しますので、Azure Monitorと同じ枠組みで動作しているわけではないです。

ご質問

- クエリストアは、SQL Server on VMはサポート外でしょうか?Azure SQL Databaseのみですか？
- →サポートされています
- →詳しくは以下ページをご覧ください
- <https://learn.microsoft.com/ja-jp/sql/relational-databases/performance/tune-performance-with-the-query-store?view=sql-server-ver16>
- なお「**～～という機能はSQL Server (on VM) / Azure SQL Database / Azure SQL Database Managed Instanceで利用できるのか？**」については、Azure SQLのドキュメントやSQL Serverのドキュメントの「**適用対象**」という部分を見ればわかります。

■ 「適用対象」で、ドキュメントの各ページで説明される機能がどのサービスで利用できるのかがわかる

クエリストアは
SQL Server 2016以降が適用対象
(サポートされます)

この場合、このSQL Serverが、SQL Server on
Azure VM、オンプレのSQL Server、他社クラ
ウドで稼働するSQL Server、Dockerコンテ
ナー内など、
どの場所で稼働していてもかまいません。

Azure SQL Databaseも適用対象

- 適用対象: ✔ SQL Server 2016 (13.x) 以降のバージョン ✔ Azure SQL Database
✔ Azure SQL Managed Instance ✔ Azure Synapse Analytics (専用 SQL プールのみ)、Microsoft Fabric の SQL データベース ✔

SQL Server クエリ ストア機能を使用すると、SQL Server Management Studio ビ
ジュアル インターフェイスと Transact-SQL クエリを通じて、ワークロードでク
エリを検出およびチューニングできます。この記事では、使用統計情報に基づい